

令和7年度 坂戸市立上谷小学校学校評価

○評価 A:よくできている B:概ねできている C:あまりできていない D:できていない

「改善策として考えられること等」の欄には、それぞれの質問項目に関して、その改善策として考えられること等があれば記述します。

領域	NO	評価項目	評価の観点	自己評価	評価	評価の説明及び改善策として考えられること
組織・運営	1	本校は、目指す学校像の実現に向け、組織的・計画的に取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> 校長は、目指す学校像の実現に向け、経営方針を職員や保護者に説明している。 本校は、学校経営の重点を明確にして取り組んでいる。 本校は、PDCAサイクルで教育活動に取り組んでいる。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初、各行事において具体的に説明してきた。 道徳の授業を重点として、授業改善に努めた。 行事や研修など、適宜振り返りを行った。その際の吟味方法に課題がある。
	2	本校は、災害や事故等に対する組織的な体制を整えている。	<ul style="list-style-type: none"> 本校は、危機管理マニュアルを整え、共通理解している。 本校は、災害や不審者侵入に対する訓練を実施している。 本校は、安全点検を確実に実施している(定期実施、危険箇所への適切な対応)。 本校は、家庭・地域と連携し、登下校の安全や自転車乗車時のヘルメット着用など児童生徒の安全確保に取り組んでいる。 本校は、整理整頓された環境を整備している。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 危機管理マニュアルを整備し、毎学期の訓練、毎月の安全点検を確実に実施した。 毎日、登下校の安全指導を実施し、ヘルメットの着用を呼びかけ、着用者が増えている。 職員室、米糞玄閤、各教室を整理整頓した。 マニュアルや訓練内容が現実に生かせるものなのかを吟味する必要がある。 さらに整理整頓すべき箇所が多くある。
	3	本校は、働き方の改善を推進している。	<ul style="list-style-type: none"> 本校の教職員は、時間外勤務が月45時間以上とならないよう努めている。 本校は、ノー残業デーを実施している。 本校は、行事や部活動について適切な活動時間や役割分担となっている。 本校は、長時間勤務者に対して、管理職や同僚が声がけをし、支援している。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 様々な働き方改革のための取組により、時間外勤務時間が大幅に減っている。 行事については、児童や保護者の協力を得て、さらに充実させていく必要がある。
教育課程・学習	4	本校は、主体的・対話的で深い学びのある授業づくりに取り組んでいる。(市重点項目)	<ul style="list-style-type: none"> 本校は、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す授業づくりに全校で取り組んでいる。 本校の教員は、魅力的な学習課題を授業で提示している。 本校の教員は、ペアやグループでの協働的な学習活動を実施している。 本校の教員は、授業研究会や授業を見合う機会を通して互いを高め合っている。 本校は、各種学力調査等の結果を分析し、日常の授業改善に努めている。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ペア・グループによる学習は定着した。協働的に学習する必要がある学習課題を提示することが課題である。 主体的・対話的で深い学びがある授業における児童の姿を共有していき、生きる力の育成を進めていく必要がある。 授業研究会を複数回実施し、他校の授業に積極的に参観することで研鑽を積んだ。 教育委員会指導主事を招聘し、学力調査の結果を分析するとともに、指導を見直した。
	5	本校は、豊かな心を育む教育の充実を図っている。	<ul style="list-style-type: none"> 本校は、道徳教育の全体計画をもとに全校で豊かな心を育む教育に取り組んでいる。 本校の教員は、特別の教科道徳の授業の充実に取り組んでいる。 本校の教員は、児童生徒が互いを尊重し、支え合う学級づくりをしている。 本校の教員は、SOSの出し方やいじめ防止等についての授業を実施している。 本校の児童生徒は、あいさつや適切な言葉遣いができる。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 道徳教育について、授業を核として根本的な部分について協議をし、教職員の授業力が高まった。 校内研修を通して、特別の教科道徳の授業への知識や技能を得たことで、教材研究に意欲的になり、授業が充実してきている。 全ての教育活動で道徳教育を意識した計画・実施ができるようにする。
資質の向上	6	本校は、体罰や交通事故等の不祥事を根絶するための効果的な取組を実施している。(市重点項目)	<ul style="list-style-type: none"> 本校は、教職員事故防止のための研修や倫理確立委員会を定期的に開催している。 本校の教職員は、児童生徒に威圧的な態度で接することがないようにしている。 本校は、不祥事防止チェックリストの活用等、効果的に教職員の意識啓発を行っている。 本校は、気になることや心配なことを伝えられる風通しのよい職場である。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 教職員が分担して倫理確立委員会を定期で実施することで、事故を起こさないという職員室の風土がある。 児童にとって威圧的と捉えられない職員の間接的言動があるため、今後改善していく必要がある。 職員数が少ないため、輪番制に声をかけやすい環境があり
	7	本校は、不登校の未然防止や課題解決のための取組を実施している。(市重点項目)	<ul style="list-style-type: none"> 本校の教職員は、児童生徒一人一人を大切に、温かい雰囲気ですべて接している。 本校の教職員は、児童生徒や保護者への対応において、話をよく聴くことや受容することを中心とした教育相談的対応に努めている。 本校は、不登校児童生徒への支援方針・具体策等(予防含む)を校内会議で検討し、家庭等とも連携しながら支援している。 本校は、個に応じた支援ができる校内の環境・体制を整備している。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 全職員が多くの児童について理解をし、積極的に声をかけたり寄り添ったりしている。 校内での情報共有を行い、対応方法について吟味したり、協力体制づくりを行っている。 必要に応じて関係専門機関と連携し、児童と家庭が抱える問題を解決することに努めている。 学校と家庭とが、どのように子供を育てていきたいかを共有し、共に支えていくようにする。
学習環境	8	本校は、特別支援教育の充実を図っている。(市重点項目)	<ul style="list-style-type: none"> 本校の教員は、特別支援教育について理解し、児童生徒の実態とニーズに合わせて対応している。 本校は、特別支援教育についての理解が深まる研修を実施している。 本校は、コーディネーターを中心に児童生徒や保護者に寄り添った就学支援を行っている。 本校は、児童生徒や保護者へ特別支援教育の理解が深まる取組(便り、説明等)を実施している。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 子供同士をつなぐことを中心とした授業を進めることで、支え合う関係性が構築できてきている。 困り感のある児童に対して、職員一人で抱え込まずに対応方法を検討している。 授業や学級経営のユニバーサルデザイン化が不十分な面があるため改善していく。 特別支援教育についての保護者への説明や理解を得るための発信を増やしていく必要がある。
家庭・地域との連携	9	本校は、積極的に家庭・地域等と連携・協働している。	<ul style="list-style-type: none"> 本校は、学校運営協議会の充実に努めている。 本校は、ホームページや学校だより等で定期的に情報発信を行っている。 本校は、地域の人材を授業や諸活動に活用している。 本校は、家庭・地域に開かれた行事や教育活動を積極的に実施している。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会を定期で開催し、学校経営・運営について・学校・保護者・地域のつながりの在り方の確認を行った。 授業や行事を参観していただき、目指す学校像に向かう進捗状況を評価していただいた。 地域と学校の懸け橋として、それぞれの立場で提案していただいたり、活動していただいたりできた。
小中連携	10	本校は、小中連携を推進している。	<ul style="list-style-type: none"> 本校は、児童生徒が安心して学校生活を送るための学校間の情報交換会を実施している。 本校は、生活のきまりや学習の進め方等、小中で共通した取組を実施している。 本校は、体験授業・部活や合同研修等、児童生徒や教員が相互に関わる取組を実施している。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 小中連絡会を4回実施し、教職員同士の情報共有が図れた。 情報共有以外の取組については、様々な角度から取組を増やしていく必要がある。